



## T コマンド

この章では、T で始まる Cisco Nexus Virtual Services Appliance コマンドについて説明します。

### tacacs+ enable

TACACS+ をイネーブルにするには、**tacacs+ enable** コマンドを使用します。TACACS+ をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**tacacs+ enable**

**no tacacs+ enable**

#### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

#### デフォルト

なし

#### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

#### サポートされるユーザーロール

ネットワーク管理者

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

#### 例

次に、TACACS+ をイネーブルにする例を示します。

```
n1010(config)# tacacs+ enable
n1010(config)#
```

次に、TACACS+ をディセーブルにする例を示します。

```
n1010(config)# no tacacs+ enable
n1010(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show tacacs-server</b>	TACACS+ サーバの設定を表示します。
<b>tacacs-server host</b>	Cisco Nexus 1000V と指定した TACACS+ サーバ ホストの間で共有されるキーを指定します。
<b>tacacs-server key</b>	Cisco Nexus 1000V と TACACS+ サーバ ホストの間で共有されるグローバル キーを指定します。

# tacacs-server deadtime

応答性について到達不能（非応答）TACACS+ サーバをモニタする定期的な時間間隔を設定するには、**tacacs-server deadtime** コマンドを使用します。非応答 TACACS+ サーバのモニタリングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**tacacs-server deadtime** *minutes*

**no tacacs-server deadtime** *minutes*

構文の説明	<i>time</i>	分単位の時間間隔です。有効な範囲は 1 ～ 1440 です。
デフォルト	0 分	
コマンドモード	グローバル コンフィギュレーション (config)	
サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン**

時間間隔の設定をゼロにすると、タイマーがディセーブルになります。個別の TACACS+ サーバのデッドタイム間隔がゼロ (0) よりも大きい場合は、サーバグループに設定された値よりもその値が優先されます。

デッドタイム間隔が 0 分の場合、TACACS+ サーバがサーバグループの一部でグループのデッドタイム間隔が 0 分を超えていない限り、TACACS+ サーバモニタリングは実行されません。

その他の TACACS+ コマンドを使用して機能を設定する前に、グローバル コンフィギュレーションモードで、**tacacs+ enable** コマンドを使用して TACACS+ 機能を最初にイネーブルにする必要があります。

**例** 次に、デッドタイム間隔を設定して、定期的なモニタリングをイネーブルにする例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# tacacs-server deadtime 10
```

次に、デッドタイム間隔をデフォルトに戻して、定期的なモニタリングをディセーブルにする例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# no tacacs-server deadtime 10
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>deadtime</b>	非応答 TACACS+ サーバをモニタリングするデッドタイム間隔を設定します。
<b>show tacacs-server</b>	TACACS+ サーバ情報を表示します。
<b>tacacs+ enable</b>	TACACS+ をイネーブルにします。

# tacacs-server directed-request

ログイン時にユーザが認証要求を特定の TACACS+ サーバに送信できるようにするには、**tacacs-server directed-request** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**tacacs-server directed-request**

**no tacacs-server directed-request**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

ディセーブル

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

その他の TACACS+ コマンドを使用して機能を設定する前に、グローバル コンフィギュレーション モードで、**tacacs+ enable** コマンドを使用して TACACS+ 機能を最初にイネーブルにする必要があります。

ユーザは、ログイン中に *username@vrfname:hostname* を指定することができます。*vrfname* は使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; VPN ルーティングおよび転送) 名で、*hostname* は設定した TACACS+ サーバ名です。ユーザ名が認証用にサーバ名に送信されます。

## 例

次に、ログイン時にユーザが認証要求を特定の TACACS+ サーバに送信できるようにする例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# tacacs-server directed-request
```

次に、ログイン時にユーザが認証要求を特定の TACACS+ サーバに送信できないようにする例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# no tacacs-server directed-request
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show tacacs-server</b>	TACACS+ サーバの設定を表示します。
<b>tacacs+ enable</b>	TACACS+ をイネーブルにします。



# tacacs-server host

TACACS+ サーバ ホスト パラメータを設定するには、コンフィギュレーション モードで **tacacs-server host** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
tacacs-server host {hostname | ipv4-address | ipv6-address}
[key [0 | 7] shared-secret] [port port-number]
[test {idle-time time | password password | username name}]
[timeout seconds]

no tacacs-server host {hostname | ipv4-address | ipv6-address}
[key [0 | 7] shared-secret] [port port-number]
[test {idle-time time | password password | username name}]
[timeout seconds]
```

## 構文の説明

<i>hostname</i>	TACACS+ サーバのドメイン ネーム サーバ (DNS) 名。名前は、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 256 です。
<i>ipv4-address</i>	A.B.C.D 形式の TACACS+ サーバの IPv4 アドレス。
<i>ipv6-address</i>	X:X:X::X 形式の TACACS+ サーバの IPv6 アドレスです。
<b>key</b>	(任意) TACACS+ サーバ用の共有秘密キーを設定します。
<b>0</b>	(任意) TACACS+ クライアントとサーバ間の通信を認証する、クリア テキストで指定された事前共有キー (0 で表示) を設定します。これはデフォルトです。
<b>7</b>	(任意) TACACS+ クライアントとサーバ間の通信を認証する、暗号文で指定された事前共有キー (7 で表示) を設定します。
<i>shared-secret</i>	TACACS+ クライアントとサーバ間の通信を認証する事前共有キー。事前共有キーは、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 63 です。
<b>port port-number</b>	(任意) 認証用の TACACS+ サーバのポートを設定します。有効な範囲は 1 ~ 65535 です。
<b>test</b>	(任意) テスト パケットを TACACS+ サーバに送信するようにパラメータを設定します。
<b>idle-time time</b>	(任意) サーバをモニタリングするための時間間隔を分数で指定します。時間の範囲は 1 ~ 1440 分です。
<b>password password</b>	(任意) テスト パケット内のユーザ パスワードを指定します。パスワードは、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 32 です。
<b>username name</b>	(任意) テスト パケット内のユーザ名を指定します。ユーザ名は、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 32 です。
<b>timeout seconds</b>	(任意) TACACS+ サーバへの再送信 TACACS+ サーバ タイムアウト期間 (秒単位) を設定します。有効な範囲は 1 ~ 60 秒です。

## デフォルト

パラメータ	デフォルト
アイドル時間	ディセーブル
サーバ モニタリング	ディセーブル
タイムアウト	1 秒

## ■ tacacs-server host

テスト ユーザ名	test
テスト パスワード	test

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション (config)

**サポートされるユーザロール** ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** TACACS+ を設定する前に、**tacacs+ enable** コマンドを使用する必要があります。  
アイドル時間間隔が 0 分の場合、TACACS+ サーバの定期モニタリングは実行されません。

**例** 次に、TACACS+ サーバ ホスト パラメータを設定する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# tacacs-server host 10.10.2.3 key HostKey
n1010(config)# tacacs-server host tacacs2 key 0 abcd
n1010(config)# tacacs-server host tacacs3 key 7 1234
n1010(config)# tacacs-server host 10.10.2.3 test idle-time 10
n1010(config)# tacacs-server host 10.10.2.3 test username tester
n1010(config)# tacacs-server host 10.10.2.3 test password 2B9ka5
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show tacacs-server</b>	TACACS+ サーバ情報を表示します。
	<b>tacacs+ enable</b>	TACACS+ をイネーブルにします。



# tacacs-server key

グローバル TACACS+ 共有秘密キーを設定するには、**tacacs-server key** コマンドを使用します。設定した共有秘密キーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
tacacs-server key [0 | 7] shared-secret
```

```
no tacacs-server key [0 | 7] shared-secret
```

構文の説明	0	(任意) TACACS+ クライアントとサーバ間の通信を認証する、クリア テキストで指定された事前共有キーを設定します。これはデフォルトです。
	7	(任意) TACACS+ クライアントとサーバ間の通信を認証する、暗号文で指定された事前共有キーを設定します。
	<i>shared-secret</i>	TACACS+ クライアントとサーバ間の通信を認証する事前共有キー。事前共有キーは、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 63 です。

デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** TACACS+ 事前共有キーを設定して TACACS+ サーバに対してデバイスを認証する必要があります。キーの長さは 63 文字で、出力可能な任意の ASCII 文字を含めることができます (スペースは使用できません)。グローバル キーを設定して、デバイスにあるすべての TACACS+ サーバ コンフィギュレーションで使用するようにできます。**tacacs-server host** コマンドで **key** キーワードを使用することで、このグローバル キーの割り当てを上書きできます。

TACACS+ を設定する前に、**tacacs+ enable** コマンドを使用する必要があります。

**例** 次に、TACACS+ サーバ共有キーを設定する例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# tacacs-server key AnyWord
n1010(config)# tacacs-server key 0 AnyWord
n1010(config)# tacacs-server key 7 public
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show tacacs-server</b>	TACACS+ サーバ情報を表示します。
<b>tacacs+ enable</b>	TACACS+ をイネーブルにします。

# tacacs-server timeout

TACACS+ サーバへの再送信間隔を指定するには、**tacacs-server timeout** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**tacacs-server timeout** *seconds*

**no tacacs-server timeout** *seconds*

構文の説明	<i>seconds</i>	TACACS+ サーバへの再送信間隔を秒単位で設定します。有効な範囲は 1 ~ 60 秒です。
デフォルト	5 秒	
コマンドモード	グローバル コンフィギュレーション (config)	
サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	TACACS+ を設定する前に、 <b>tacacs+ enable</b> コマンドを使用する必要があります。	
例	次に、TACACS+ サーバのタイムアウト値を設定する例を示します。 <pre>n1010# configure terminal n1010(config)# tacacs-server timeout 3</pre> 次に、デフォルトの TACACS+ サーバのタイムアウト値に戻す例を示します。 <pre>n1010# configure terminal n1010(config)# no tacacs-server timeout 3</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show tacacs-server</b>	TACACS+ サーバ情報を表示します。
	<b>tacacs+ enable</b>	TACACS+ をイネーブルにします。

# tail

ファイルの末尾の行を表示するには、**tail** コマンドを使用します。

```
tail [filesystem://module/][directory/]filename lines
```

構文の説明		
<i>filesystem</i> :	(任意) ファイル システムの名前。名前では、大文字と小文字が区別されま す。	
<i>//module/</i>	(任意) スーパーバイザ モジュールの ID。有効な値は、 <b>sup-active</b> 、 <b>sup-local</b> 、 <b>sup-remote</b> または <b>sup-standby</b> です。ID では、大文字と小文 字が区別されます。	
<i>directory/</i>	(任意) ディレクトリの名前。名前では、大文字と小文字が区別されます。	
<i>filename</i>	コマンドファイルの名前。名前では、大文字と小文字が区別されます。	
<i>lines</i>	(任意) 表示する行数。有効な範囲は 0 ~ 80 です。	

デフォルト 10 行

コマンド モード 任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例 次に、ファイルの末尾の 10 行を表示する例を示します。

```
n1010# tail bootflash:startup.cfg
ip arp inspection filter marp vlan 9
ip dhcp snooping vlan 13
ip arp inspection vlan 13
ip dhcp snooping
ip arp inspection validate src-mac dst-mac ip
ip source binding 10.3.2.2 0f00.60b3.2333 vlan 13 interface Ethernet2/46
ip source binding 10.2.2.2 0060.3454.4555 vlan 100 interface Ethernet2/10
logging level dhcp_snoop 6
logging level eth_port_channel 6
```

次に、ファイルの末尾の 20 行を表示する例を示します。

```
n1010# tail bootflash:startup.cfg 20
area 99 virtual-link 1.2.3.4
router rip Enterprise
router rip foo
    address-family ipv4 unicast
router bgp 33.33
event manager applet sctest
monitor session 1
monitor session 2
ip dhcp snooping vlan 1
```

```
ip arp inspection vlan 1
ip arp inspection filter marp vlan 9
ip dhcp snooping vlan 13
ip arp inspection vlan 13
ip dhcp snooping
ip arp inspection validate src-mac dst-mac ip
ip source binding 10.3.2.2 0f00.60b3.2333 vlan 13 interface Ethernet2/46
ip source binding 10.2.2.2 0060.3454.4555 vlan 100 interface Ethernet2/10
logging level dhcp_snoop 6
logging level eth_port_channel 6
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>cd</b>	現在の作業ディレクトリを変更します。
<b>copy</b>	ファイルをコピーします。
<b>dir</b>	ディレクトリの内容を表示します。
<b>pwd</b>	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

# telnet

Telnet セッションを作成するには、**telnet** コマンドを使用します。

```
telnet {ipv4-address | hostname} [port-number] [vrf vrf-name]
```

## 構文の説明

<i>ipv4-address</i>	リモートデバイスの IPv4 アドレス。
<i>hostname</i>	リモートデバイスのホスト名。名前は、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 64 です。
<i>port-number</i>	(任意) Telnet セッションのポート番号。有効な範囲は 1 ~ 65535 です。
<b>vrf</b> <i>vrf-name</i>	(任意) Telnet セッションで使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) 名を指定します。名前では、大文字と小文字が区別されます。

## デフォルト

ポート 23  
デフォルト VRF

## コマンドモード

任意のコマンドモード

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、**telnet server enable** コマンドを使用して Telnet サーバをイネーブルにする必要があります。

## 例

次に、IPv4 アドレスで Telnet セッションを開始する例を示します。

```
n1010# telnet 10.10.1.1 vrf management
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear line</b>	Telnet セッションを消去します。
<b>telnet server enable</b>	Telnet サーバをイネーブルにします。

# telnet server enable

Telnet サーバをイネーブルにするには、**telnet server enable** コマンドを使用します。Telnet サーバをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**telnet server enable**

**no telnet server enable**

**構文の説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** イネーブル

**コマンドモード** グローバル コンフィギュレーション (config)

**サポートされるユーザロール** ネットワーク管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

**例** 次に、Telnet サーバをイネーブルにする例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# telnet server enable
```

次に、Telnet サーバをディセーブルにする例を示します。

```
n1010# configure terminal
n1010(config)# no telnet server enable
XML interface to system may become unavailable since ssh is disabled
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show telnet server</b>	Telnet サーバの設定を表示します。
	<b>telnet</b>	Telnet セッションを作成します。

# terminal event-manager bypass

CLI イベント マネージャをバイパスするには、**terminal event-manager bypass** コマンドを使用します。

## terminal event-manager bypass

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

イベント マネージャはイネーブルです。

### コマンド モード

任意のコマンド モード

### サポートされるユーザロール

ネットワーク 管理者  
ネットワーク オペレータ

### 構文の説明

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

### 例

次に、CLI イベント マネージャをディセーブルにする例を示します。

```
n1010# terminal event-manager bypass
n1010#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show terminal</b>	端末の設定を表示します。



# terminal length

画面に表示される行数を設定するには、**terminal length** コマンドを使用します。

**terminal length** *number*

## 構文の説明

*number* 行数。有効な範囲は 0 ~ 511 です。

## デフォルト

28 行

## コマンドモード

任意のコマンドモード

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
ネットワーク オペレータ

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

一時停止をディセーブルに設定するには *number* に 0 を指定します。

## 例

次に、画面に表示する行数を設定する例を示します。

```
n1010# terminal length 60
n1010#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
show terminal	端末の設定を表示します。

# terminal monitor

Telnet または Secure Shell (SSH; セキュア シェル) へのログインをイネーブルにするには、**terminal monitor** コマンドを使用します。

## terminal monitor

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

なし

### コマンド モード

任意のコマンド モード

### サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

### コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

### 例

次に、Telnet または SSH へのログインをイネーブルにする例を示します。

```
n1010# terminal monitor
n1010#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show terminal</b>	端末の設定を表示します。
<b>terminal length</b>	画面に表示される行数を設定します。
<b>terminal session-timeout</b>	セッション タイムアウトを設定します。
<b>terminal terminal-type</b>	端末タイプを指定します。
<b>terminal width</b>	端末の幅を設定します。

# terminal session-timeout

セッション タイムアウトを設定するには、**terminal session-timeout** コマンドを使用します。

**terminal session-timeout** *time*

## 構文の説明

*time*                    タイムアウト時間を秒単位で指定します。有効な範囲は 0 ~ 525600 です。

## デフォルト

なし

## コマンドモード

任意のコマンドモード

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
ネットワーク オペレータ

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

タイムアウトをディセーブルに設定するには *time* に 0 を指定します。

## 例

次に、セッション タイムアウトを設定する例を示します。

```
n1010# terminal session-timeout 100  
n1010#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show terminal</b>	端末の設定を表示します。

# terminal terminal-type

端末タイプを指定するには、**terminal terminal-type** コマンドを使用します。

**terminal terminal-type** *type*

構文の説明	<i>type</i>	端末タイプを指定します。
デフォルト	なし	
コマンドモード	任意のコマンドモード	
サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 ネットワークオペレータ	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。
例	次に、端末タイプを指定する例を示します。 n1010# <b>terminal terminal-type vt100</b> n1010#	
関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show terminal</b>	端末の設定を表示します。

# terminal tree-update

メインのパス ツリーを更新するには、**terminal tree-update** コマンドを使用します。

## terminal tree-update

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### デフォルト

なし

### コマンド モード

任意のコマンド モード

### サポートされるユーザーロール

ネットワーク 管理者  
ネットワーク オペレータ

### コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

### 例

次に、メインのパス ツリーを更新する例を示します。

```
n1010# terminal tree-update  
n1010#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show terminal</b>	端末の設定を表示します。

# terminal width

端末の幅を設定するには、**terminal width** コマンドを使用します。

**terminal width** *number*

構文の説明	<i>number</i>	1 行の文字数を指定します。有効な範囲は 24 ~ 511 です。
デフォルト		102 列
コマンドモード		任意のコマンドモード
サポートされるユーザロール		ネットワーク管理者 ネットワーク オペレータ
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。
例		次に、端末の幅を指定する例を示します。 n1010# <b>terminal width 60</b> n1010#
関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show terminal</b>	端末の設定を表示します。

# traceroute

パケットが IPv4 アドレスへの移動時に通るルートを検出するには、**traceroute** コマンドを使用します。

```
traceroute {dest-ipv4-addr | hostname} [vrf vrf-name] [show-mpls-hops] [source src-ipv4-addr]
```

## 構文の説明

<i>dest-ipv4-addr</i>	宛先デバイスの IPv4 アドレス。形式は、 <i>A.B.C.D</i> です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスの名前。名前では、大文字と小文字が区別されます。
<b>vrf</b> <i>vrf-name</i>	(任意) 使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) を指定します。名前では、大文字と小文字が区別されます。
<b>show-mpls-hops</b>	(任意) MPLS ホップ カウントが表示されます。
<b>source</b> <i>src-ipv4-addr</i>	(任意) 送信元 IPv4 アドレスが指定されます。形式は、 <i>A.B.C.D</i> です。

## デフォルト

デフォルトの VRF を使用します。  
MPLS ホップを表示しません。  
送信元アドレスに管理 IPv4 アドレスを使用します。

## コマンドモード

任意のコマンドモード

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

IPv6 アドレス指定を使用してデバイスへのルートを検出するには、**traceroute6** コマンドを使用します。

## 例

次に、デバイスへのルートを調べる例を示します。

```
n1010# traceroute 172.28.255.18 vrf management
traceroute to 172.28.255.18 (172.28.255.18), 30 hops max, 40 byte packets
 1 172.28.230.1 (172.28.230.1) 0.746 ms 0.595 ms 0.479 ms
 2 172.24.114.213 (172.24.114.213) 0.592 ms 0.51 ms 0.486 ms
 3 172.20.147.50 (172.20.147.50) 0.701 ms 0.58 ms 0.486 ms
 4 172.28.255.18 (172.28.255.18) 0.495 ms 0.43 ms 0.482 ms
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>ping</b>	IPv4 アドレッシングを使用する別のデバイスへのネットワーク接続性を調べます。

